

「でも、年取ればいやな夢は見なくなるでしょう。」  
妻がボランティア先でおしゃべりをしていたら夢の話になり、じつと聞いていた先輩女性がそう言ったのだそうだ。言われてみると思い当たる節がある。

いつの頃からか眠りが浅くなつてきて、細切れになるのもしばしばなので、生々しい夢の名残を抱えつつ目覚めることが多くなった。勤めていた頃、いや退職してからもしばらくは、どれもこれも徹底的にいやな夢だった。

出勤しなければならぬのに、どうしても学校にたどり着けない。遅れることを連絡しようとするのに一つ一つ手段が断たれていく。電話番号が見つからない、書いてあるはずのメモがない、ええいままよと車に乗るがいつたいたどこをどう走つたものか道に迷う、という具合だ。その間にも焦りは募るばかりで、今まで無断はおろか一度だつて遅刻したことなどないのに、そんな人間だと思われたらたまらん、ともがきにもがく。目が覚めて夢と気づくまで救われない。

たいていはこのパターンであり、あとは場所や登場人物、状況が少しずつ異なつたものだ。授業をしなければならぬのにまったく準備ができておらず、少しでも予習しておこうとするがごとく邪魔が入る、というのでも数知れず見た。

学校に勤めるようになってから相当長きにわたつて、就職したものの単位が足りなくて大学を卒業できず、焦りまくる夢を見ていた。だからきつと退職したからといってそう簡単に解放はされまい、とは思っていたが、こう見る夢見る夢どれもこれも苦しくてはかなわんなあと嘆いたものだ。

ところがである。ここへ来てその夢に変化が現れ始めた。

出勤しなければならぬ時刻が迫っているのにまだ準備ができていない。非常にまずい。今から出ても遅刻だ。学校に連絡しなければ。ええと、電話番号は、何番だつたつけ。どうして忘れてしまつているんだ。そうだ、メモ、メモ、メモはどこだ。ここまでは同じ。でも、焦りの程度がいくらかやわらいでいる。どうにかなるんじゃないかという気がどこかかしている。えつ、なんだこれファックスじゃないか。どうやって使うんだ。紙入れるのどこだ、どこだ。ふと気づく。隣に機械に真に強い事務さんが笑顔で立っているではないか。教えてもらつて無事送信。ほつとしたところで目が覚めた。以来、連絡、出勤、授業、どうにかできそうになつて目が覚めるのだ。

先輩女性の指摘は普遍性を持つのか。読者諸氏にもぜひご教示願いたい。



専門ババ奮闘記(その2) 83

木幡智恵美

ショートステイ (2)

退院後の受け入れ先が決まつてから半月、玉湯に行つて子守をしたり、娘と三人の孫が来たり、畑に行つたりしながら、一日おきに義母のいる病院に通つた。

宗矢の泣き入りけいれんはなかなか収まらない。我が家から帰る際、車に乗るのが嫌で大泣きすることが多く、唇が紫になつてぐったりした宗矢を抱つこしたまま娘の車に乗り込んで玉湯まで行き、その後を夫が車で付いてくるということが何度かあつた。

病院での義母は寝ていることが多く、ある時は、「寝てばかりだから帰りますよ」とベッドに背を向けると、「どこへ帰えかね」と背中から声がする。振り向いて、「あら、うちの家ですがね」と答え、逆に、「婆ちゃんは今どこにいますか」と聞くと、「出雲」なんて答えが返つてきた。また、ある時は、「そろそろ帰りますよ」と言うのと、「寺町へね」などと言うことも。寺町は義母の生家があるところで、その時は幼少期の記憶の中に迷い込んでいたのかもしれない。

退院二日前、カンファレンスに呼ばれた。病院側からは、医療ソーシャルワーカーさん、担当看護師さん、実習生さん、ショートステイからは、主任さん、ケアマネさん、そして私たち夫婦が顔を揃え、一時間の予定で始まつた。

まずは担当看護師から入院生活の記録が書かれた紙が配られ、一か月半の様子を話される。紙を見て驚いたのは、体重が入院前から十キロ減つていたことだつた。行つても寝ていることが多いので、そこまでとは気づかなかつた。一日一回オマルに座らせる時と、放射線治療、リハビリ以外はほとんど寝ているようで、精神科から処方される睡眠剤で夜眠ることもあれば、壁ドンがずっと車椅子に乗せて詰め所に連れてくることもあるとのこと。お尻と腰のあたりに褥瘡があり、皮膚科から薬が出ていて、その治療も継続するようにとのことだつた。ここところ食事は二割程度しかとれていないよいうだ。痩せるのは当然だ。ヨーグルトやプリンを食べるとのこと、ケアマネさんから、家庭から栄養補給のために飲むゼリーやヨーグルトなどを持ち込んでもらいたいと言われる。ショートステイの側からの確認は事細かい。そこまでしてくださるのかという思いだ。一時間の予定は大幅に超えた。

30代フリーター やあ、ジイさん。25人が犠牲になった大阪市北区の心療内科クリニックの放火殺人事件は、容疑者が死亡し、元日の新聞では現場に献花に訪れた犠牲者の同級生が「事件の真相を聞きたかった」と悔やむ様子などが報じられた（1月1日朝日新聞朝刊）。

年金生活者 仮に容疑者が快復し、警察の事情聴取に応じたとしても、私たちが理解できるような動機が語られるとは限らない。全身やけどを負った京都アニメーション放火殺人事件の被告は事情聴取に耐えられるまで快復したとき、京アニに自分の小説を盗まれたから火をつけたと供述したと伝えられている。私たちはそれを聞いて動機がわかった気になっただろうか。「なぜそんなふうと思うんだ」「そんなことであれだけの事件を起こしたのか」と逆に疑問を膨らませたのではないか。

30代 クリニック放火事件の容疑者の死亡を伝える朝日新聞は「多くの人を巻き込んで自殺しようと放火に及ん

のではないか。

そう考えれば、両事件の被告と容疑者は他人を殺したくらいでは晴らせない恨み、自分をも抹殺しないと消すことのできない恨み、つまり古典的な動機の「怨恨」を超えた深い恨みを抱いていたことが考えられる。

自分を裏切った人間たちを罰するために、大量殺戮を実行する旧約聖書の神のような存在になったような幻影を容疑者は抱いたのかもしれない。だが、幻影はいつか消える。自殺はそれを阻もうとする行動だったのではないか。死は生の個性を脱して普遍性に移行することだ。神はその普遍性を人間に与えるいわば究極の普遍性と言える。自殺は自分で自分に普遍性を与えることだから、神の振る舞いに近いとみなされる。

30代 そんな恨みはどうしたら生まれるんだ。

年金 さつきも言ったように、患者として通院するうち、頼りにしていた医師またはスタッフの何気ない言動に、

だ」という大阪府警の見方を紹介している（2021年12月31日朝刊）。

年金 だとしたら、犯行の理由は京アニ事件の被告の供述と同様に、私たちの理解を超えたものに違いない。「馬鹿だね」と言われて、相手の愛情を感じる場合もあれば、侮辱されたと感じる場合もあるように、容疑者は大多数の人びとが思いやりを感じるようなクリニックのスタッフの言動に冷たさを感じたということだつて想定できる。

動機の説明を困難にしたとされる容疑者の死は同時に、動機の性質を最も雄弁に語っているとも言える。その性質とは殺人の古典的な動機である物取り・怨恨・痴情とは異なるものであり、現在の凶悪事件の動機の本流をなしていると考えることができると。

30代 容疑者宅で京アニ事件の新聞記事が見つかったと報じられた（12月21日朝日新聞朝刊）。あの事件をまねた犯行の疑いが濃厚だ。

年金 61歳の容疑者は一酸化炭素中毒で重篤な状態に陥り、死亡した。京ア

通常なら持つことのない過剰な被害者意識を抱き、犯行に及んだのではないかと、想定をするのが今のところせいじつばいだ。

京都アニ事件の被告は京アニ作品の一部をとらえて「自分の小説を盗まれた」という思い込みを募らせたと推察される。人間は精神のバランスを崩す

二事件の被告は重いやけどを負った。ともに危機的な状態に陥った点も共通している。どちらも計画的な犯行とみられるのに、命の危険にさらされたのは、ふたりとも死を覚悟していたことをうかがわせる。

30代 京アニ事件の被告が自殺を企図していたという報道は、ネットを検索した限りでは見当たらない。

年金 タクシー運転手だった父親が仕事中に死亡事故を起こして失業し、自殺したことが報じられた。さらに、祖父と妹も自殺していたという音楽ライターの磯部涼のルポもある（「デイリー新潮」2021年7月17日）。被告にとつて、自殺は身近な出来事としてあり、そのハードルはそれほど高くなかったことが考えられる。自殺は伝染もする。1986年にアイドル歌手の岡田有希子がビルの屋上から飛び降り自殺したとき、あとを追ったとみられる若者の自殺が相次いだ。被告に明瞭な自殺意図がなかったとしても、死んでもかまわないという気持ちはあつ

と、極端に他罰的になるか極端に自罰的になる。

クリニック放火の容疑者もそんな状態に陥っていたことが考えられる。そのきっかけを想像すると、たとえば、日ごろ丁寧に対応してくれている医師がスタッフがいづもとは違うもの言い方をしたのを、まるで手のひらを返したような冷たい態度に一変したと受け取ったことかもしれない。通常の精神状態なら、あれっ、と思うくらいで済むようなことだったのに、異常に他罰的になっていったことが想定される。

30代 「ブラジルでの蝶のはばたきがテキサスに竜巻を引き起こす」というバタフライ効果のたとえを思い出した。

年金 事件現場の心療内科クリニックは「オフィス街から近く、いつも多くの患者が訪れていた」という（12月18日朝日新聞朝刊）。条件が重なれば「蝶のはばたき」にもダメージを受けられる可能性のある多くの現代人の精神の状況を示している。

ニュース日記 815  
中村 礼治

## 放火殺人事件をめぐる